

台湾の航空業界におけるインターンシップ

Internships in Taiwan's aviation industry

紙 矢 健 治

分野：教育学

キーワード：台湾、航空会社、インターンシップ、高雄餐旅大学

I. はじめに

台湾の航空会社が受け入れているインターンシップは、2011年2月17日に徳山大学が学術交流協定を締結した国立高雄餐旅大学（以下、高雄餐旅と略す）が開発した「サンドイッチ教学」の中核をなす「校外実習」として実施されており、現在ではその期間は大学によって異なるものの、半年から1年間となっている。このサンドイッチ教学は、1996年2月より高雄餐旅において実施され、その後は台湾国内に普及していった教育システムである。サンドイッチ教学そのものについては、拙著の「台湾のホスピタリティ教育の現状とその課題（1996－2006）」（日本観光学会誌第47号2006年6月）と「台湾の職業系大学におけるインターンシップの現状」（産業教育学研究第37巻第1号）があるので参照されたい。ホスピタリティの領域のインターンシップは、ホテルやレストラン、旅行会社などが主なものであったが、現在では航空会社や高速鉄道でも、その受け入れが可能となっている。世界的に見ても航空会社の有給のインターンシップを受け入れるのは珍しく、大いに日本に紹介したいところである。本稿では、1997年8月から航空会社においてインターンシップを実施してきた高雄餐旅大学旅遊学院航空暨運輸服務管理系（以下、航空管理学科と称する）が、いかにしてこの制度を構築してきたか、それにはどのような人的つながりが介在したのかを考察する¹⁾。

Ⅱ. 高雄餐旅のサンドイッチ教学の概略

国立高雄餐旅大学は1996年2月の開学から現在まで長期で有給の校外実習を中核としたサンドイッチ教学を実施して来た²⁾。校外実習とは日本のインターンシップに相当するが、最近の分類では、大学主導で行われる実習をコーオペ教育 (Cooperative Education) と企業が主体に行うインターンシップの二つに分けられるので、前者のコーオペ教育に相当するが、3年次の前期10単位、後期10単位、合計20単位を校外実習で履修し、この1年間の成績評価は60パーセントを実習先企業の上長が行い、残り40パーセントを「聯合訪視」と呼ばれる立ち入り検査の場や聞き取り内容に基づき、クラス担任の教員が行うため、実際にはコーオペ教育とインターンシップの中間に属すると考えられる。2005年度に特色ある大学教育プログラムに採択された京都産業大学の「サンドイッチ方式のコーオペ教育」などに比べると、それに遡ること9年も前から始まった高雄餐旅の校外実習の特徴は、在学4年間のうち3年次の1年間を実習先企業で過ごし、台湾の最低賃金の法令に基づく給与を得ながら、実習に取り組むことである³⁾。

サンドイッチ教学は、高雄餐旅の創立者で初代学長である李福登氏の発案によるものであり、それはスイス・ローザンヌホテルスクール (Ecole Hoteliere de Lausanne) のシステムを台湾の職業教育の実情にあわせて改良して完成させたもので、長期の校外実習を学内教育ではさむ形態をサンドイッチに例えて「サンドイッチ教学」と名づけたものである。李氏のシステムでは、

-
- 1) 国立高雄餐旅大学航空旅遊学院航空暨運輸服務管理系は、1997年8月から2000年7月まで航空服務学科 (航空サービス学科)、2000年8月から2009年7月まで航空管理学科、2009年8月以降航空暨運輸服務管理学科と称されている。系とは、日本の大学の学科に相当する。本稿では、4年制大学の校外実習 (インターンシップ) 制度が航空管理学科時代に確立されたため、また混同を避けるため一律、航空管理学科と称することとした。
 - 2) 国立高雄餐旅大学は2010年度より総合大学となるまでは、国立高雄餐旅学院と称された。台湾の学院とは、単科大学の意味し、職業系大学の場合は3学部9学科、一般大学の場合は3学部12学科以上の規模で、教育部の審査を通過した学院が大学と称することができる。
 - 3) 京都産業大学の「コーオペ教育」については、同大学のホームページを参照されたい。
(<http://www.kyoto-su.ac.jp/path/career/ce/>)

まず、短期大学部において実施された「旧サンドイッチ教学」と、2002年度に発足した4年制大学部における「新サンドイッチ教学」がある。このうち短大部のシステムは、2007年度をもって、短大部の学生募集が中止され、全面的に4年制大学に移行されたため、本稿では、新サンドイッチ教学を取り扱うものとする。

(表1) サンドイッチ教学の実施行程

年次	1年次	2年次	3年次	4年次
内外	学内	学内	学外	学内
サンドイッチ教学 の実施内容	校内実習		校外実習	「海外参访」
	労作教育			

(注) 校内実習、労作教育

1. 労作教育 (0単位 必修)

まず、労作教育と言えば、エレン・ホワイトの労作教育を連想する。おそらくは1893年にスイスに創立されたローザンヌホテルスクールのシステムを高雄餐旅が取り入れたので、その影響を受けている可能性が高い⁴⁾。ただ、高雄餐旅の労作教育がエレン・ホワイトのそれと同一の性質であるのかについては、その直接的根拠はない。

高雄餐旅の労作教育は、4年制大学部の1年生と2年生全員に課せられる。毎週月曜日から金曜日まで午前7時ごろから約1時間、クラスごとに分配された校舎内外の範囲を「心を込めて」掃除を行う。管理は、「小隊長 (小隊長)」と呼ばれる上級生が行い、成績の決定は体育室所属の教師が行う。この労作教育は、0単位ではあるものの必修科目であり、点数が低いために卒業延期になった例もある⁵⁾。

4) エレン・ホワイトの労作教育については、村上義夫 (2004) 「エレン・ホワイトの労作教育観」『北陸大学紀要』第28号、pp204～227等を参照されたい。

5) 2年次は、放課後に実施される場合もある。

2. 校内実習（2単位 必修）

校内実習とは、高雄餐旅を訪問した来賓をもてなす実習である。もとより高雄餐旅は重点大学であり、李登輝元総統をはじめ数多くの賓客が訪問する。陳水扁政権になってからは、中米7カ国の大統領や首相を招いた「国宴」も高雄餐旅で挙行されるなど、国賓クラスの来賓も多い。それら来賓をもてなすのが校内実習の場であり、国賓をはじめハイグレードな来賓をもてなすことができる最高の教育の場が提供されている。その他、貴賓の接待に加え、台湾全土の高等学校の在学生在が、将来の進学先の参観のために高雄餐旅を参観に訪れる。こうした来客も秘書室のふりわりによって、すべての学生に接待する機会が与えられる。

3. 校外実習（20単位 必修）

3年次の1年間において、一切大学にもどることなく、実習先企業の就業規定に基づき準社員の扱いでシフトが組まれ、勤務する。サンドイッチ教学の中核をなすのが、企業における1年間にわたる校外実習、つまり「長期賃金インターシップ」である。このシステムは、ホテルやレストラン、旅行社、航空会社などの企業に、一定のスキルを習得し、かつ即戦力になるうる学生を、毎年断続的に企業に送りこみ、実習をさせる制度である。このインターンシップで特徴的なのが、賃金を得ながら業務に携わる賃金インターンシップであるという点である。

賃金は、月給として支給され、2007年度の相場は17,000～20,000円（61,200～72,000円）である。航空管理学科が発足し、最初の実習生を派遣したさいには46,000円（約165,600円）という破格の月給が支給されたこともあったが、現在では航空会社でも20,000円（72,000円）前後が相場である。例外的には、

（表2）高雄餐旅の校外実習（長期賃金インターンシップ）の給与の相場

実習地点	賃 金	備 考
台湾国内	17,000～22,000台湾元	一部を除き社員寮の提供はない
日本	138,000円前後	社員寮完備(5,000円)、社員食堂での食事
シンガポール	500シンガポールドル	社員寮完備(韓、比などからの実習生と同居)
タイ	10,000台湾元以上	社員寮完備

(注)このほかに、カナダやヨーロッパでの実習があるが、筆者が直接インタビューできたものだけを記載した。

2011年6月 紙矢健治：台湾の航空業界におけるインターンシップ

日本国内のホテルで実習を行う場合の月給は138,000円（日本円）、シンガポールのチャンギ国際空港などで実習を行う場合は、500シンガポールドル、タイのホテルなどでの実習の場合は、10,000新台湾元の月給がそれぞれ支払われる。

4. 海外参访（1単位 必修）

海外参访は、4年次の第2学期に実施される海外研修である。約半月の日程で、ヨーロッパ諸国を中心とした国々に赴き研修を行う。学科によって、訪問先が変わり、航空管理学科はフランス南部、ツールーズのエアバス本社、フード&ビバレッジ学科はミシュラン1星レストランやモエ・シャドン、ホテルマネジメント学科はローザンヌホテルスクールなど、学科の属性によって訪問先が独自にアレンジされている。



(写真1) スイス・ローザンヌホテルスクール訪問（2002年12月）

Ⅲ. 校外実習の受け入れ制度の確立

1. 弱い紐帯（教員と航空会社の人脈）

マーク・グラノヴェッター（Mark Granovetter）の言うところの「弱い紐帯」と「強い紐帯」により、高雄餐旅航空管理学科は校外実習の受け入れ先を確保し制度化してきた⁶⁾。張健豪・黄淑君（2001）は、こうした「弱い紐帯」の強みと「強い紐帯」の強みを用いて、高雄餐旅の航空管理学科がいかにして複数の航空会社から多数の実習定員を獲得したのかを述べている⁷⁾。

6) 弱い紐帯と強い紐帯の理論については、Granovetter Mark（1973）‘The Strength of Weak Tie’ “American Journal of Sociology” 78:pp1360-1380.を参照されたい。

航空管理学科の専任教員は現在8名である。副教授2名、助理教授4名、講師2名である。このうち1名が航空業界とは無関係である以外は、7名すべてが航空会社からの移籍である。まず、弱い紐帯に相当するのが、各々の教員が持つ前職のネットワークである。第一代主任の張健豪氏は1997年2月に高雄餐旅に赴任し、同年8月まで旅運管理学科に属しながら、航空服務学科の設立準備を行った。グラノヴェッターの言う弱い紐帯に当たるのが、張氏が前職中に培ってきた人脈である。張氏は中華航空公司高雄分公司空服組經理や中華航空公司空服處座艙長（パーサー）を歴任した実務経験者である。第二代主任の陳福川氏も長栄航空国際営業管理部などに勤務経験がある実務経験者である。台湾国内の航空会社の実習生受け入れは、台湾史上前例がなく、張氏と陳氏がそれぞれもっている前職中に培われた航空会社における人脈がそれをつくり上げたと言える。この弱い紐帯なしには、到底成しえることはできなかった⁸⁾。

前述の張健豪氏と陳福川氏以外の専任教員を見ると、萬光満氏と程健行氏が長栄航空、楊政樺氏と王穎駿氏が遠東航空、そして李靜旻氏がキャセイパシフィック航空から教員として招かれている。これらすべてが校外実習実施の弱い紐帯となり、香港の航空会社であるキャセイ航空やその子会社である香港ドラゴン航空でも有給の校外実習が行われるようになった。航空会社以外にも2007年度に開業した台湾高速鉄路（THSRC）でも行われており、同社のサービス系統は、多数長栄航空からの移籍者で占められ、その結果、数多くの実習生の受け入れを可能にした⁹⁾。

2. 強い紐帯（大学と企業の契約による産学合作制度の成立）

これら教員と企業側のつながりを見ると、表4のような弱い紐帯が浮き彫りとなる。学科が新設された1997年度から、第一代主任の張健豪氏は、表4のような紐帯を有していることが分かる。張氏が所属していた中華航空は、当初から校

7) 張健豪・黃淑君（2001）「從組織理論探討三明治学制與企業間之關係——以国立高雄餐旅学院航空管理系個案為例」『人力資源管理学报』2001、冬季号、第一卷第三期、pp27～42。
8) 同7。また、筆者による聞き取りによる。

9) 2007年12月10日、台湾高速鉄路人事担当李副理に対するインタビューの内容に基づく。

(表3) 国立高雄餐旅大学航空管理学科教師

教員氏名	前任航空会社
張健豪副教授	中華航空公司高雄分公司空服組經理 中華航空公司空服處座艙長
陳福川助理教授	長榮航空公司國際營業管理部、企画本部、營業部、運務部
萬光滿助理教授	立榮航空（ユニエアー）服勤部經理（部長） 長榮航空（エバー航空）空服員訓練教官 長榮航空 空勤座艙長 長榮航空 第一期空服員
王穎駿助理教授	空軍第三修護補給大隊 遠東航空公司飛行安全部、ISO内部品質稽核員
李靜旻講師	キャセイパシフィック航空（香港）パーサー
楊政樞副教授	遠東航空公司企画処職員 遠東航空公司企業内部講師 遠東航空公司總經理（社長）専案助理（助手） 遠東航空公司董事長（取締役会長）専案助理（助手）
程健行講師	長榮航空（エバー航空）客運本部客運部

(注)その他、1名の助教教授が所属している。

外実習先として実習生を受け入れて来たことは言うまでもなく、同時に、当時の上司や同僚がその後、遠東航空や華信航空、復興航空においてポストを得ていたため、こうした弱い紐帯をたどって実習先を拡大していった。一方、第二代主任の陳福川氏（任期：1999年8月-2001年1月）は1997年8月に高雄餐旅に赴任する前には、長榮航空に勤務しており、表5にあるように、陳氏の長榮航空在職中からの人脈をもとに、長榮航空は1998年7月から校外実習生の受け入れを開始すると、次第に受け入れ定員を増やし、航空管理学科の50名の定員のうち、35名前後の受け入れを行うようになった。1999年ごろには、他社が17,000元前後の月給であったのに対し、前述のように長榮航空は46,000元という破格の月給を支払ったために、学科内に旺盛な競争精神を呼び起こした。この弱い紐帯を大学との正式な産学合作の教育システムとしてサンドイッチ教学を制度化した結果、従来の各教員の弱い紐帯によってつながっていた個人的信頼関係が、大学と航空会社の正式な契約関係に発展し、強い紐帯となったことが分かる¹⁰⁾。

10) 1997年8月の時点では実習就業室が窓口となっていたが、2002年度以降は産学合作処実習就業組が窓口となって、大学と各企業が正式な契約を行い校外実習を実施している。（同7を参照のこと）

(表4) 第1代主任 張健豪氏と各航空会社の弱い紐帯

会社名	職位	氏名	前職（第一代主任との紐帯関係）
遠東航空	総経理	A	元中華航空航務処長（元上司）
	空服処長	B	元中華航空空服処（元同僚）
華信航空	総経理	C	元中華航空空服処長（元上司）
	空服処長	D	元中華航空空服中心主任（元同僚）
復興航空	総経理	E	元中華航空企画処長（元上司）
	副総経理	F	元中華航空空服処副処長（元上司）
	空服経理	G	元中華航空空服処（元同僚）

(表5) 第2代主任 陳福川氏と各航空会社の弱い紐帯

会社名	職位	氏名	前職（第二代主任との紐帯関係）
立栄航空	総経理	H	元長栄航空客運管理部協理（元上司）
長栄航空	総経理	I	元長栄航空客運本部協理（元上司）
	中正機場総主任	J	元長栄航空客運本部（元上司）

大学と航空会社との間に、正式な契約関係ができあがったことは、各航空会社が毎年定期的にも実習生を採用する制度を形成し、高雄餐旅はシミュレーション設備を駆使して高いスキルをもつ有能な実習生を継続的に送り出すことを可能にした。各教員がそれぞれもっていた弱い紐帯を通じて、強い紐帯である正式な産学合作の関係の完成により、中華航空に加え、遠東航空、華信航空、復興航空でも実習を可能にすることとなった。実習場所として特記すべき点は、従来は立ち入りできない国際空港内のパスポートコントロール区域の搭乗口やビジネスクラスやファーストクラスの乗客が利用する貴賓室（VIP ルーム）に立ち入った実習を可能としたことである。

(表6) 高雄餐旅航空管理学科校外実習受け入れ開始時期

航空会社名	開始時期	実習場所
中華航空公司	1998年1月－現在	桃園国際空港など
立栄航空公司	1998年1月－現在	桃園国際空港など
遠東航空公司	1998年1月－現在	台北松山空港本社、桃園国際空港など
復興航空公司	1998年1月－現在	三重営業所など

3. 教員資格について

日本では、比較的教員の採用における大学の裁量の幅が広い。一方、台湾では、大学教員要件はきわめて厳格に大学法により定められている。教員登用は、1997年3月に改正された新「大学法」によって決められるが、日本の制度とはちがいで、台湾では私立大学を含めたすべての大学の教員資格は所管官庁である教育部によって認定されることになっている。まず、現行の大学法では、台湾の教員は、教授・副教授・助理教授・講師・助教の5階級の職位からなっている¹¹⁾。そして、台湾のすべての大学教員は、国家による教師証書が発行され、講師は「講師証書」助理教授は「助理教授証書」など、その職位の教師証書が発行されている¹²⁾。

大学法では、新任教員は講師の場合、教育部が承認する大学院のコースに2セメスター以上在籍し、成績記録があり、かつ各1セメスター（18週間）の3分の2以上の出席したことを証明する記録が必要となる。一方、助理教授の場合、教育部が承認する大学院博士課程に4セメスター（2年）以上在籍し、成績記録があり、かつ各セメスター（18週間）の3分の2以上、出席したことを証明する記録が必要となる。学歴の追跡調査は、教育部高等教育司第二科によって行われ、海外の場合、台湾の大使館や海外代表処の文教組によって厳格に実施されている。したがって、海外で修士学位や博士学位を取得した場合、その認証に時間がかかり、半年程度の期間が費やされることもある¹³⁾。なお、台湾教育部が承認する外国における大学の学歴は、教育部學術審議委員会（2009）「専科以上学校教師資格審査法規選輯」、（教育部）にリストが掲載されており、アメリカやアジア諸国でも、承認されない大学も一部ではあるが存在する。例えば、フィリピン国内にある大学の場合、台湾の教育部が承認しているのは4大学に限られている¹⁴⁾。

11) 教員資格は教育部によって認定されるが、とくに高い技能をもつ人材を各大学の裁量で「技術教師」として採用することもできる。

12) 教育部學術審議委員会（2009）「専科以上学校教師資格審査法規選輯」、教育部を参照されたい。

13) 日本の大学院の学歴の認証は台北駐日経済文化代表処が行う。

14) 同12、pp100。

IV. 校外実習について

1. 入学から校外実習までのトレーニング

入学した学生は、まずいかなる人間関係にも耐えられるように、1年次には全員寮生活をおくる。これは、キャビンアテンダントのような業務の場合、ステイ先のホテルなどでは、必ず同僚と同室となることを想定している。また、ホテルやレストラン、旅行社でも、同様のチームスピリットが要求されるためである。

次に、入学してから1年次、2年次及び4年次の3年間に128単位以上の必修と選択科目を履修する。専門科目は、学内の第一と第二実習ビルにおいて、ホテルやレストラン、旅行社、航空機内、空港カウンター、航空会社予約センターを忠実に再現したシミュレーション設備を活用した実地トレーニングが行われる。

2. 校内企業面接（校園徴才）

2年次の第2学期毎年2月末の後期日程が始まると、概ね3月末に「校園徴才」が実施される。これは企業の担当者に直接大学内で行われる面接会に来てもらい、希望する学生の採用面接を実施する。期間中は学内に実習生を受け入れるあらゆる企業が特設ブースをもうけ、学生の面接を行う。航空管理学科は受け入れ企業が多くないため、また、1社当たりの採用数が多いため、企業ごとに単独での面接会を実施するが多い。中華航空やエバー航空、台湾高速鉄道は、数十人単位で実習生を採用するため、やはり単独で募集を行う。

3. 「操行」の成績～時間厳守の徹底や身なり

素行と訳される。素行成績である。この操行の成績¹⁵⁾は、100点満点であるが、基準点が82点であり、理由のない欠席をした場合は、1点減点される。ボーダーラインは60点で、厳密に言えば59.6を下回った場合は、自動的に退学処

15) 高雄餐旅大学学生奨懲辦法、学生操行成績考査辦法による。

分となる。したがって、前期または後期18週間のうち23時間の無断欠席をした場合、父兄に対し文書で連絡した上で、操行評定委員会の審査を経て、退学となる。なお、皆勤の場合は3点が加算され、また、模範的な行動があった場合は、審査を経て点数が加算される。現在、高雄餐旅の学生の「素質」の高さを保障しているのが、この「操行」の成績であろう。台湾では全大学においてこの操行の成績を算出しているが、基本的なちがいは、この欠席に対する扱いである。高雄餐旅以外の大学では、学期中3分の1までは無断欠席が許されていることを勘案すれば、高雄餐旅がいかに厳格な運用をしているかが容易に理解できる。

操行を統括するのは、学生事務処と軍事訓練室であり、毎朝キャンパスでは、陸海空軍の制服を着用した軍事教官が登校する学生の身なりをチェックしている。操行の成績はクラス担任が40パーセント、学科主任が40パーセント、軍事教官が20パーセントをシェアし、学期ごとに集計され、操行の成績が算出される。

4. 校外実習の成績評価

校外実習は3年次に実施され、前期10単位、後期10単位の合計20単位が校外実習において60点以上の成績であった学生に与えられる。成績評価は前期・後期ともに18週目に行われ、表6のように60パーセントが受け入れ企業の上司により評価が行われ、残りの40パーセントは、担任によって評価される。担任は、受け入れ先の企業と実習生双方と緊密な連絡を取り、実習の状況の把握に努める。

(表7) 高雄餐旅の校外実習成績の評価方法

No.	内 容	百 分 率	
1	実習企業部署の上長による評価 (採点)	60%	
2	本学教師の校外実習訪問視察	20%	40%
3	校外実習のレポートと感想	20%	

また、評価基準は明文化され、表7のような10の項目の達成度によって成績が決定される。

(表8) 高雄餐旅校外実習の企業側の評価基準の一覧

No.	評価の項目
1	仕事の計画能力
2	業務技術の能力
3	積極的に実務に参加しているかどうか
4	学習精神
5	人間関係とトラブル処理能力
6	責任感、まじめさ、身の程をわきまえているかどうか
7	誠実さ、間違いを改める勇気を持っているかどうか
8	主体性、勤勉さ
9	時間を厳守できているかどうか
10	身なり、端莊、礼節、熱忱、謙虚さ、協調性。

(注)以上10の各項目はそれぞれ10点満点で、合計で100点となる。

5. 「連合訪視」～校外実習の担任教師による評価について

担任は、毎週月曜日に各企業をまわり、実習生の様子を観察したり、また問題がないかを聞き取りをしてまわる。この校外実習を統括するのが「産学合作処実習就業組」¹⁶⁾である。基本的に毎週月曜日が「連合訪視」¹⁷⁾と呼ばれる企業訪問日である。個々の教師が別個に実習先の企業に訪問すると、企業の業務に支障をきたす場合があり、複数の実習生が在籍する企業へは、基本的に実習就業組長が企業側の人事担当者にアポイントをとった上で、団体で訪問するスタイルをとっている。

一般的な訪視の形式は、例えば、ホテルの場合、館内のビジネスセンターや業務用の会議室などにあらかじめ実習生を集め、教師と対面するようなスタイルをとる。概ね1時間ほどの時間であるが、まず、企業の担当者に聞き取りをした後、学生から近況や業務内容、そして悩みなどの聞き取りをした上で、「訪視報告」に記入し、大学にもどるとただちに出張旅費の精算と同時に報告も提出する。

16) 台湾の部署の名称で「処」は日本の「部」に相当し、「組」は概ね「課」、「係」に相当する。

17) 「訪視」とは訪問視察の意味である。



(写真2) 台湾高速鉄道 (THSRC) 板橋駅 実習状況を上長から聞き取り



(写真3) 台湾高速鉄道 (THSRC) 板橋駅 実習状況を実習生から聞き取り

V. おわりに

高雄餐旅のサンドイッチ教学の成功により、それまで単独で学生を募集していた高雄餐旅は、2002年8月に日本の入試センター試験に相当する「四技二専入学測驗」に参加し、同時に「餐旅類」が新設された。大学の学科類別に餐旅、つまりホスピタリティが加えられ、ひとつの大学が創造したサンドイッチ教学が数多くの大学に大きな影響を与えた。例えば、学生減少に悩んでいた精鐘商業専科学校は、2004年度に高雄餐旅の研究発展処長の李銘輝氏を学長に迎え、高雄餐旅のサンドイッチ教学をそのまま取り入れ、高雄餐旅そっくりの台湾観光学院に衣替えし、成功を収めている例もある¹⁸⁾。2010年度までにホスピタリティ類に属する学科を設置した大学は、職業系大学だけで72大学に及ぶ¹⁹⁾。

18) 花蓮県寿豊郷にある私立大学である。台湾観光学院 HP : <http://www.tht.edu.tw/>

19) 技専校院招生策進總會 HP : <http://www.techadmi.edu.tw/> を参照されたい。なお72大学には高雄餐旅を含まない。

(表9) 職業系大学「四技二専統一入学試験」全体に占めるホスピタリティ類に占める割合

年度	2002年度	2005年度	2007年度	2009年度	2011年度
受験者総数	225,387	182,521	172,530	158,194	159,243
ホスピタリティ類	10,092	15,891	21,105	23,091	26,498
全体比	4.47%	8.70%	12.2%	14.6%	16.6%

(注) 技専校院招生策進総会HP:<http://www.techadmi.edu.tw/>

また、2002年度にホスピタリティ類が新設されてから、ホスピタリティ類の志願者は年々増加し、2002年度は表8の通り全体の4.47パーセントであったものが、2011年度には全体の16.6パーセントを占めるに至った。少子化の流れの中で、ホスピタリティ類以外の20類別は軒並み志願者を減少させており、ホスピタリティ類の一人勝ちの状態を作り出している²⁰⁾。

高雄餐旅を取り巻く状況は、少子化にあるものの、常に特色のある教育システムに改良を加えつつ、全教職員が持つ、すべての「紐帯」を通じて、校外実習を受け入れる企業をさらに拡大させ、受験生や在学生に対し、確実に就職先を提供するだけの教育システムを守り続ける限り、ホスピタリティ類は台湾の職業系大学の主流の地位を確保し続けるにちがいない。

(本稿は2007年12月に行われた第16回山口大学経済学部東アジア国際シンポジウムの基調講演のレジュメに加筆し、整理したものである。山口大学経済学部の藤井大司郎教授(前学部長)、篠原淳教授(現、日本経済大学教授)および宮崎充保教授(前国際センター長)をはじめ、観光政策学科の諸先生方にお礼申し上げたい。また、執筆においては、国立高雄餐旅大学の張健豪教授や陳福川教授より、貴重な情報や意見をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。)

20) 一般大学は、大学聯合招生委員会による募集により学生募集が行われ、2010年度の入学登録者総数は130,468人とどまっている。

大学入学中心HP：<http://www.ceec.edu.tw/>を参照されたい。

(文献)

李福登 (1997) 「三明治教学法在技職教育上之検証」『技術及職業教育双週刊』38期、pp14～17.

張健豪・黃淑君 (2001) 「從組織理論探討三明治学制與企業間之關係——以国立高雄餐旅学院航空管理系個案為例」『人力資源管理學報』2001、冬季号、第一卷第三期、pp27～42.

教育部學術審議委員會 (2009) 「專科以上學校教師資格審查法規選輯」、教育部

Granovetter Mark (1973) 'The Strength of Weak Tie' "American Journal of Sociology" 78:pp1360-1380.

(ホームページ)

教育部 HP: <http://www.edu.tw/>

国立高雄餐旅大学 HP : <http://www.nkuht.edu.tw/>

国立高雄餐旅大学旅遊学院航空暨運輸服務管理系 HP

<http://www.nkuht.edu.tw/onweb.jsp?webno=3333333354>

台湾觀光学院 HP : <http://www.tht.edu.tw/>

京都産業大学「コーオペ教育」HP : <http://www.kyoto-su.ac.jp/path/career/ce/>

技専校院招生策進總會 HP : <http://www.techadmi.edu.tw/>

大学入学中心 HP : <http://www.ceec.edu.tw/>